

主要科目の目標、特長(看護学研究科 看護学専攻)

授業科目の名称	目標	特長
共通科目		
看護研究方法論Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理論・実践・研究の関連をふまえて、看護学の発展にとって看護研究が果たす役割について説明できる。 2. 基本的な研究の問いのレベルと研究デザインとの関係を説明できる。 3. 質的な研究方法と量的な研究方法の違いについて説明できる。 4. 質的な研究方法が、哲学的・理論的な基盤によって特徴が異なることを説明できる。 5. 質的な研究方法を用いた論文をクリティークし、適用範囲や限界、必要となる倫理的な配慮について説明できる。 6. 研究課題に対して適切な質的研究方法を選択するための視点について説明できる。 	<p>看護研究の研究過程、基本的な研究デザイン・研究方法について学び、それぞれの研究デザイン・研究方法を用いて実施された看護研究の論文をクリティークし、研究成果を実践に活用できる能力を養う、とくに看護研究方法論Ⅰでは、質的研究方法に焦点を当て、哲学的・理論的立場による研究方法の特徴や現象から研究課題を導いていく過程、データ収集や分析方法について具体的に学習する。</p>
看護研究方法論Ⅱ	<p>量的なデザインの研究において</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概念枠組みと仮説検証、検証の考え方がわかる。 2. 横断研究、縦断研究、交絡要因、因果関係が説明できる。 3. 量的研究の各デザイン(記述的研究、調査研究、実験研究、準実験研究、尺度開発研究、介入研究など)の特徴と実際の方法について説明できる。 4. 量的デザインのシステマティックレビューの結果を説明できる。 5. データ収集、測定方法、尺度開発方法の基本を学び、統計ソフトを動かしながら、実際の解析を行い、データを読み取り、結果をまとめることができる。なお、統計解析ソフトはSPSSを扱う予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護なデザインの研究における基本的な知識と技術を習得することができる。 ・量的研究論文のクリティークをすることができる。 ・量的な研究デザインのシステマティック・レビュー結果の理解を深めることができる。 ・実際の統計ソフトを動かしながら、データの統計処理を行うことができる。
看護実践教育論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における教育的なかかわりの位置づけを説明できる。 2. 動機づけの原理について理解し、説明できる。 3. 成人期の学習の特徴を理解し、活用できる。 4. 学習目標の設定や教育評価の方法を説明できる。 5. 個人を対象とした教育方法の特徴を説明し、活用できる。 6. 集団を対象とした教育方法の特徴を説明し、活用できる。 	<p>看護の対象が自ら意思決定し、行動を変容していくことを支える上で必要な教育的なかかわりを理論に基づいた実践となるよう基礎的な知識を修得する。個人ならびに集団を対象とした教育的なかかわりにおける効果的な方法論を学修する。</p>
看護倫理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における教育的なかかわりの位置づけを説明できる。 2. 動機づけの原理について理解し、説明できる。 3. 成人期の学習の特徴を理解し、活用できる。 4. 学習目標の設定や教育評価の方法を説明できる。 5. 個人を対象とした教育方法の特徴を説明し、活用できる。 6. 集団を対象とした教育方法の特徴を説明し、活用できる。 	<p>看護の対象が自ら意思決定し、行動を変容していくことを支える上で必要な教育的なかかわりを理論に基づいた実践となるよう基礎的な知識を修得する。個人ならびに集団を対象とした教育的なかかわりにおける効果的な方法論を学修する。</p>
ヘルスプロモーションと健康教育	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスプロモーションの諸理論とその特徴を探求できる。 2. わが国の代表的な健康推進政策について理解し、おのおのの健康課題に対する政策の特徴と評価について考察できる。 3. 個人、集団、組織、地域への健康促進を支援する手法やスキルの開発や看護援助方法が探求できる。 4. ヘルスプロモーションの政策づくりびむけた活動戦略を考察できる。 	<p>看護領域におけるヘルスプロモーションの基本的な理論を教授し、健康教育の手法とスキルを用いた看護援助方法を探求する能力を養う。</p>

主要科目の目標、特長(看護学研究科 看護学専攻)

授業科目の名称	目標	特長
家族看護論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の定義や機能・発達および家族看護学の主要な理論について説明できる。 2. 家族看護におけるアセスメントや援助方法について説明できる。 3. さまざまな健康問題をもつ家族の看護の実践方法について理解できる。 4. 家族看護学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析できる。 5. 家族看護学領域における自身の研究課題を見出せる。 6. 研究課題として見出した家族の健康や看護にかかわる現象を理解する上で有用な理論や概念について、文献的考察ができる。 7. 研究課題に即した研究の枠組み、方法論の検討ができる。 	<p>家族の定義や機能・発達、看護における援助方法とりわけ家族を1つの単位として援助する重要性と家族看護における看護の役割を理解し、対象である患者・家族が抱える健康問題を解決するために必要な論理的な思考力と適切な看護を実践できる能力を身につける。また、家族の健康や家族生活に関わる現象を説明している看護学領域の理論を取りあげ、それぞれの理論の特徴や限界を分析し、家族ケアに関する研究方法の特徴や限界を考察する。そのうえで、家族の健康生活を構築するために有用な理論開発の可能性を検討するとともに、家族の健康レベルを高めていく看護方法を開発する能力を修得する。</p>
看護システム論	<ol style="list-style-type: none"> 1. システム理論やシステム・アプローチを学習し、現状の保健医療福祉提供システムや看護ケア提供システムについて、システム論の観点から分析し、課題を解決していく方策を検討できる。 2. 医療の高度化、グローバル化、IT化等、変化する社会のなかで、人々の命と健康を守る保健医療福祉システムや看護ケア提供システムのあり方について再考し、看護専門職の役割について説明できる。 3. システム論のなかで「個から全体へ、全体から個へ」という見方を修得し、看護政策や効果的な看護システムの構築について検討し、意見を述べることができる。 	<p>システム理論やシステムアプローチを学習し、システムという考え方を基に日本の保健医療福祉システムや看護ケア提供システムを見直し、変革や新しいシステム構築への提言ができる能力を養う。</p>
看護理論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論を理解するために必要な基本的知識を修得する。 2. 科学哲学および科学論の看護への影響について説明できる。 3. 看護現象を説明している理論を分析・評価し、その理論の特徴を説明することができる。 4. 看護理論と実践、研究との関係を理解し、看護理論の活用について説明できる。 	<p>看護理論の特徴や限界について分析・評価し、看護理論を研究や実践に活用することができる能力を養う。</p>
看護管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の実践に必要な基本的知識を理解し、説明することができる。 2. 管理のプロセスを理解し、目標を達成するための効果的なマネジメントについて説明できる。 3. 自らが所属する組織の分析を行い、より良質な看護を提供できる組織の構築を検討することができる。 4. 看護管理上の課題や問題について、その原因を分析し、改善・改革のための方策を考えることができる。 	<p>保健医療福祉機関における看護管理に必要な諸理論を中心に、管理の基本と実践を学び、看護管理のあり方を探求する。また、保健医療福祉の現状を踏まえ、看護管理に影響する要因を探り、より質の高い看護を提供できる看護管理について検討する。</p>

主要科目の目標、特長(看護学研究科 看護学専攻)

授業科目の名称	目標	特長
コンサルテーション論	1. コンサルテーションの理論について説明できる。 2. コンサルテーションのプロセスについて説明できる。 3. コンサルテーションが成立する要件について説明できる。 4. コンサルテーションにおける援助関係の特徴とコンサルタントに求められる能力(技術・態度を含む)について説明できる。 5. 個人だけではなく、グループおよび組織へのコンサルテーションの展開方法を説明できる。	コンサルテーションの理論を学習し、看護実践の場においてコンサルテーションを実際に活用できる能力を養う。
専門教育科目〔共通〕		
生活支援看護学総論	1. 主要な看護理論における“健康”や“生活”の定義を説明できる。 2. 文献から近年に提示されている新たな概念を理解できる。 3. 文献検討や討議から“その人らしい生活”について自身の考えを説明できる。 4. これからの社会の中で生活を支援する看護の役割を考えることができる。	あらゆる健康レベルの人々を対象にその人の生活を健康面から支援するという看護の基本に立ち戻り、看護の主要概念である“健康”や“生活”に関して、個々の考えを見直しながら、文献検討を行い、現代社会における新たな考え方を深める。
専門教育科目〔療養生活支援看護学領域〕		
療養生活支援看護学特論	1. 療養生活支援を必要とする対象の健康課題の動向について説明できる。 2. 療養生活を営む対象とその家族に関わる保健・医療・看護・福祉制度の動向を説明できる。 3. 療養支援を必要とする対象と家族が直面する現状と課題について、社会的観点から説明できる。 4. 療養生活支援を必要とする対象及び家族を支援する支援者の在り方について考察できる。	健康上の課題を抱えながら医療機関を含めた施設あるいは在宅で療養生活を送る対象と家族を深く理解し支援するため、その現状と直面する課題について多面的に学ぶ。様々な課題を対象と共に解決するための支援に繋がる概念、関連要因、療養への影響について、文献検討を行い、ディスカッションを通して、考察を深める。
療養生活支援看護学演習 I	1. 研究疑問に関連した国内外の文献のクリティークができる。 2. クリティークした内容をレポートし、プレゼンテーションすることができる。 3. 療養生活支援看護学に関連した概念、理論に関する具体的な困難事例を提示し、論点を明らかにしながらディスカッションすることができる。 4. 自らの研究疑問を洗練させ、研究計画書立案のための文献レビューをすることができる。	慢性疾患を抱える小児、成人、高齢者の具体的な困難事例等をもとに、療養生活支援に関する理論と課題を理解し、実践への応用するための知識と思考枠組みを修得する。ディスカッション等で得られた知見を基に自らの研究疑問を洗練させ、実施可能な研究計画の立案に繋がられるように国内外の文献を検討し、その内容をプレゼンテーション、意見交換することにより研究論文に関するクリティーク力を培う。

主要科目の目標、特長(看護学研究科 看護学専攻)

授業科目の名称	目標	特長
療養生活支援看護学演習Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高い倫理観を持ち人々の意思決定を支援できる能力を修得できる。 2. 療養生活支援を必要とする事例に対して、必要な技術を実施することができる。 3. さらに事例に対する教育支援計画を立案し、適切な介入方法や具体的なアプローチ方法を検討することができる。 4. ディスカッションを通じて、教育的支援について総合的に検討できる。 	慢性疾患を抱えた小児、成人、高齢者とその家族に対する療養生活支援に関する代表的な介入方法やアプローチ方法について理解し、教育的支援の具体的方策を修得する。
療養生活支援看護学実習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践能力を高めるためにふさわしい対象および施設を選択し、実習計画書を作成できる。 2. 実習計画書に基づき臨地における実習協力職員らに計画内容を説明し、協力を得ながら調整することができる。 	慢性疾患を抱えながら療養生活を続けている対象者が望む「その人らしい生活、人生」の実現に向けて、その人自身ならびにその家族が修得すべき能力や技術を明らかにし、療養生活を安心して過ごせるための教育的支援を行うための判断能力と実践能力を身につける。それらを通して看護師としての自己の課題を明確化する。
専門教育科目〔健康生活支援看護学領域〕		
健康生活支援看護学特論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人・家族・集団等における健康課題について説明できる。 2. 保健・医療・看護・福祉制度の動向を説明できる。 3. 『健康行動理論による研究と実践』について輪読することができる。 4. 健康生活支援の基本となる理論について説明できる。 5. ライフステージにおける健康課題について説明できる。 	地域で生活している人々の生活を包括的に捉え、個人・家族・集団等における健康課題および健康の保持・増進、疾病・介護予防に向けた看護活動について学ぶ。
健康生活支援看護学演習Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究疑問について、和文献クリティークができる。 2. 提示された理論や課題について、研究疑問にひきつけて調べてきた文献を紹介し、ディスカッションすることができる。 3. 研究疑問について、英文献クリティークができる。 	心身の健康保持増進を目指して個人のセルフケア力を高めるとともに、個人・家族・集団等を対象に、健康に関する意識および生活習慣の改善を支援する看護実践の理論と課題について、学生自身の問題意識に基づき、国内外の文献検討を行う。文献のクリティークとディスカッションを通して研究疑問を洗練する。また、研究疑問に適した研究デザインを選定し、研究計画を立案するための能力を発展させる。
健康生活支援看護学演習Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育の実際について文献検討し、ディスカッションできる。 2. 健康教育や看護介入に必要な技術を実施することができる。 3. 健康教育を立案できる。 4. 健康教育の模擬講義ができる。 5. 健康教育の評価ができる。 	健康生活支援に関する教育的支援や地域におけるケアシステム構築に向けた具体的な具体的な方策を立案し、的確な介入方法を展開するための実践能力の向上を図る。
健康生活支援看護学実習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を明確にするために相応しい対象および施設を選択し、実習計画を説明できる。 2. 教育的支援を提供するために、施設関係者および多職種との連携を図ることができる。 3. 健康生活に関する教育的支援や地域におけるケアシステム構築に向けた方策について、計画に基づき実施できる。 4. 健康生活に関する教育的支援や地域におけるケアシステム構築に向けた方策について、多角的客観的評価ができる。 5. 看護実践上の自己の課題を明確化し、看護師として必要な教育支援能力について考えることができる。 	健康生活を支援する教育的支援や地域におけるケアシステム構築に向けた方策について、具体的な実践を展開するための実習計画を立案し、多職種との連携を図りながら、健康生活の維持・増進に向けた教育的支援と実践能力を身につける。それらを通して看護師・保健師・助産師としての自己の課題を明確化する。